



2025年 新年会

みなさんで **お雑煮** を食べながらお話ししました！

参加者 14名 +スタッフ6名

まちライブラリーの近況報告

- ・来館者数 109029人 会員数 2829人 蔵書冊数 11029冊 寄贈冊数 2545冊
- ・来館者数10万人突破記念企画紹介 ・新年ことばみくじ紹介
- ・タイムカプセル本箱の近況

まちライブラリースタッフ流



この日のお雑煮レシビ

- ① 沸かしたお湯にだしとしょうゆなどを入れる（めんつゆでも可）
- ② 小松菜・鶏もも肉・麩を加える
- ③ 焼いた餅に②をかけて完成

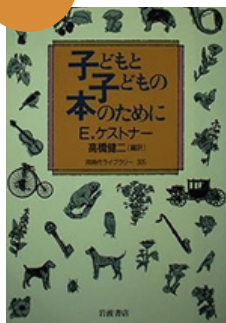
餅は、電子レンジ40秒+トースターでこんがり焼きめがつくまで焼きました。最後に塩で味を調えるのもポイント！！

本の紹介

お気に入りの本を持ち寄り、紹介しました

Uさん

子どもと子どもの本のために
エーリッヒ・ケストナー



自身の創作と半生を綴る。ナチス政権下でも亡命することなくドイツに残り続けながら、弾圧の中を命懸けで"抵抗"しながら生きたエーリッヒケストナー。児童文学者として、そして戦禍を経験した彼の視点から語られた一冊。

Oさん

〈暮らしの中の看取り〉準備講座
大井裕子



自身のホスピス・訪問診療の仕事の経験から執筆。専門用語は使わず、誰でも読みやすい文章で書かれており、10年以上にわたる患者とのエピソードを交え紹介する。

『「死」は暮らしの延長である』

★寄贈していただきました

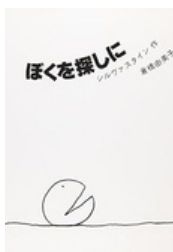
ザ・マジック
ロンダ・バーン



3人の知人から薦められ、読みはじめた本。

「引き寄せ」や「感謝ワーク」についての一冊。

ぼくを探しに
シェル・シルヴァスタイン



自分の人生の原点になっている本。

足りない自分の「カケラ」を探しにいく物語。

口訳 古事記
町田 康



『古事記』の口語訳・関西弁。

混沌の極み。女性差別の描写もあり、今読むと興味深い。

赤毛のアン
モンゴメリ著 松本侑子訳



10代の頃に読んで以来いつもそばにある本。

ドラマ「アンという名の少女」をきっかけに、松本侑子訳で再読。

離婚しそうな私が結婚を続けている29の理由
アルティシア

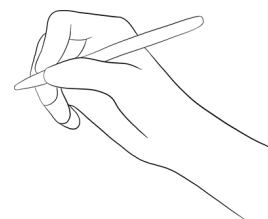


一度本から遠ざかり、また本を読み始めようと思ったきっかけの本。

波乱万丈な人生を面白おかしく書いた一冊。

「ネイバーフッドデザイン」
「おしっこちょっぴりもれたろう」
「クリスマスの休暇」
「かたばみ」
「ゆきだるま」
「往診屋」

参加者からの感想



みんなの話がイキイキとして楽しかったです。
お雑煮おいしかったです。レシピもつけてみたらどうでしょう。

お雑煮も美味しくありがとうございました。

皆さんの幅広いお話が面白くお雑煮にまつわる磯井さんのお話し、手間のかけられた美味しいお雑煮
ほかほかの時間でした。
ありがとうございます。

色々な人たちと知り合うことが出来た。

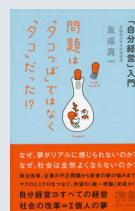
お雑煮おいしかったです！！
沢山の素敵な方とつながれて楽しかったです！！

自由な企画で楽しかったです。お雑煮もおいしかったです！否応なくコミュニケーションを取らなくちゃいけないようなゲームやその中で席替えしたりすると色々な人同士で話しやすいと思います。

磯井さんのちょこっとバナシ

将来まちライブラリーはどうなってほしいか？との質問に「お雑煮のようになってほしい」と答える磯井さん。
お雑煮は、地域・家・個人でそれぞれ作り方や味が異なり、その場所にあったお雑煮になっていくからだそう。
お雑煮とまちライブラリーを絡めたお話しに参加者もスタッフもとても驚き、納得しました。
人の想いなどのように「形のない物が残っていく」という言葉がとても印象的でした。

「問題はタコつぼでなくタコだった!？」
友成真一



腑に落ちる夢を探そう！
今やっていることを
腑に落ちる夢にしよう！

まちライブラリーの
原点ともいえる一冊。

